

第6回湖西市立学校教育施設適正化検討委員会記録 概要

- 1 日 時 令和4年3月2日(水) 14時15分～15時30分
- 2 場 所 湖西市市民活動センター
- 3 出席者 島田桂吾、袴田雄司、疋田貴之、板倉福男、鈴木誓子、杉浦よしみ、西川睦弘、黒柳孝江、新美留美、鈴木聖慈

4 概 要

前回、構成を検討した報告書の内容を各委員に確認いただき、修正点や御意見をうかがって修正した報告書が用意された。委員の意見から、今後の少子化に伴う幼稚園の在り方について意見交換をすると共に、報告書について、各委員の意見が反映されているか、検討委員会の中で議論してきたことが適切に反映されているか、また、今後湖西市の子どもたちが学校の未来を考える上で、次のステップとして提言していくのが適切かなどについて協議した。出された意見や修正箇所をもとに、委員長が修正し、3月中に教育委員会へ報告されることが確認された。

5 協議における主な意見

(1) 幼稚園の今後の在り方について

- ・幼稚園については、27年度の適正化検討委員会でも鷺津、岡崎、新居のこども園化が最終的には望ましいのではないかと提言されている。新居幼稚園と岡崎幼稚園がこども園化され進んでいるが、鷺津幼稚園の園児数減少に驚いている。今後も推し進めるような文言が欲しい。
- ・資料から、小規模幼稚園へ現在通わせている保護者は、今の状態がよいと思われているようだが、小中と同じように、いずれ厳しくなることを考え、その子たちの受け皿として、幼保連携型認定こども園を拡大していかないと難しいと思う。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」ことを考えると、幼稚園の統合は反対であるという意見もあるが、幼保連携型認定こども園で幼稚園と保育園のよさを組み合わせながら枠組みをアレンジしていく方法もある。
- ・報告書の中では、「こども園化」ではなく、「幼保連携型認定こども園化」という言葉を用いて、平成27年度の提言を推し進める文言を入れる。
- ・幼稚園の園児数が減っている現状があるが、幼稚園の一クラスの人数としては、3歳児で10人、4、5歳児で15人は欲しい。
- ・幼稚園でも、コミュニケーションを大切にと考えると、20人は必要だと思う。
- ・年長からの連続性という点から、小学校1年生の授業で友達との交流や対話が多いことを考えると、1学級の人数は二桁の人数は欲しいと思う。

(2) 報告書について

- ・学級数による学級規模の分類表の数字は学級数を表しているが、人数と間違えそうなので、単位が分かるように、表の右下に「(単位：学級)」と書き加える。
- ・保育園の需要が高まっているのは、保育料の無償化だけが要因ではないため、社会変化や制度変化などによるという書き方に修正する。
- ・白須賀地区の適正配置について、「白須賀地区の地域の方と、適正配置について議論を進めていくことが望ましい。」とアンダーラインを引いて示してあるが、2行目として、委員会で出た2案もアンダーラインで示した方が、分かりやすい。

- ・適正化配置に向けての配慮事項の中で、「社会情勢の変化に応じて、本市に住む子どもたちにとってより望ましい教育環境について関係者で広く協議して解決策を探ることが大切です。」の箇所について、この議論を継続的に協議してもらうために、もう少し具体的な言葉を用いた方がよいため、「社会情勢の変化に応じて」を「今後も児童生徒の状況を見て適宜検討委員会を実施し」に修正する。こうすることで、今回の検討委員会が最後ではなく、また適宜必要に応じて関係者の中で議論していく方向性が明確になると思う。
- ・これから先の将来のことは書かれているが、適正配置を進めるまでの期間における、現在の子どもたちの教育環境についても、整えていくことを盛り込みたい。適正配置に向けての配慮事項に加える。
- ・少子化が進む中で、小中一貫校や統合など誰もが考えそうなことだが、それをずっと議論してきて、そういう方向へ向かっていかざるを得ないのかなということが、報告書から読み取ることができ、安易に結論を出したのではないということが分かる。
- ・報告書は問題ないが、白須賀地区について、地域との話し合いが難しいのではないかなと思うということで、いくつか案を示すことにはなったが、もう少し絞ることができないかと残念な思いがある。
- ・全体的に、児童生徒数や予測の具体的な人数が書いてあり、分かりやすく、よくまとまっている。白須賀地区については、とても難しいと思うが、自分が考えていた小中一貫だけではなく、中学だけ隣接地区の中学へという考えが出ただけでも成果があった。保護者と話し合っただけで今後の見通しができたら、そのように進めていくという方が地域としても納得がいくのではないかな。
- ・効果的な手法の理由に「本市の政策などによって人を増やしていくことも大事になってくる。両輪でやっていくこと」、湖西中学区の施設面のところに「学習環境の高機能化や多機能化、防犯機能の効果」、適正配置の配慮事項に「丁寧な説明」など議論してきたことが言葉として入っているのがよい。
- ・現段階において、我々は議論して報告書をまとめたが、数年後には、また状況が変わってくる。それを踏まえると、重ねて検討していくことの大切さを感じる。
- ・平成27年、令和3年、令和9年の数字を比較して示してあるため、とても分かりやすい。また、適正配置に向けての配慮事項が非常に細かく書かれており、社会情勢や教育環境など状況によって変化させることが大切とうたってあるのは大事。
- ・前回平成27年度の検討委員会から6年、7年経ち、時代が変わってきており、この数字を見てしまうと、現実としてやむを得ないと思う反面、やはり心情的には納得できないという声があるのも事実。まとめにあるように、丁寧に皆さんに説明しながら、地域の方々とお話をしていく必要があると感じた。
- ・今後、統廃合を進めていくに当たっては、廃校になった学校の跡地利用についても議論に乗せ、話し合っていくことも大事。具体的に動き始めたときには、こういうふうにご利用していきますというのも見えるといいと思う。